

# 関東信越国税局長賞

## コロナ禍で実感した税金の役割と支え

新潟県立 新発田商業高等学校 三年 堀 彩葉 さん

「熱があるかもしれない。」妹の一言で我が家の空気が一瞬にして変わった。中学三年、冬。高校入試をすぐそこに控えていたある日のことだった。検査結果は陽性、その日から私達家族は家から一步も出られない自粛生活が始まった。

自粛期間中、ワクチン接種を済ませほとんど症状のなかった私とは反対に、当時年齢制限によりワクチンを接種できなかった妹は、四十度近い高熱と喉の痛みは何日も苦しめられていた。ワクチン一つでここまで症状に差があるのかと驚いたことを今でも覚えている。ワクチンの普及には税金が大きく関わった。開発や購入にかかる多くの費用が税金によって賄われた。ワクチンは発病や重症化を防ぐだけではなく、感染拡大を抑えるなど、私達の命を守り、多くの医療機関の負担を減らすことに役立った。

当時受験生だった私は、クラスの人と同じように授業を受けられないことにとても焦りを感じていた。そんな私にかかってきた一本の電話。担任の先生からのオンライン授業の提案だった。次の日から私は、学校から配布されていたタブレットを使い、画面越しだけれど授業が受けられるようになった。授業中にはクラスの人と同じように問題に当てられたこともあったり、休み時間には友達が話しかけてくれたりもした。友達や先生など、外へ出ないと関われない人との繋がりができたということが、ずっと一人だった自粛生活を大きく変えてくれた。学校で使用しているタブレットの購入にも税金が使われていた。もしも税金がなかったら、コロナ禍で生活が苦しい中、タブレットを一人一人が自費で購入しなければならなかったかもしれない。税金のおかげで外出が不可能だった人にも授業を受ける機会が平等に与えられたのだ。

他にも、国民一人につき一律で十万円が給付されたり、自宅療養者に食料品の支援があったりもした。段ボール箱いっぱいに入っていたごはんや水にどれだけ救われただろうか。どれもこれも社会全体の協力によって成り立った支援であり、背後には税金があった。先の見えない不安の中で沢山の人に支えられ乗り越えたあの二週間は私は決して忘れないだろう。

高校三年、秋。無事に高校へと進学した私にも卒業が迫っている。卒業後の進路に就職を選んだ私は、春から今以上に税金というものと向き合う機会が増えるだろう。しかし、私達の納める税金が色々な形で誰かを支えることを知っている。これからも税金の仕組みと役割に感謝し、大切にしていきたい。